

2016年3月期決算概要と業績予想

テルモ株式会社
常務執行役員 IR・広報室担当
北畠 一明

2016年5月10日

2015年度（2016年3月期）の決算概要、および2016年度の業績予想についてご説明します。

決算総括： 大幅な増収増益を達成

	(億円)			
	14年度	15年度	増減率	為替除く 増減率
売上高	4,895	5,250	+7%	+5%
粗利益	2,561 (52.3%)	2,849 (54.3%)	+11%	+10%
一般管理費	1,592 (32.5%)	1,701 (32.4%)	+7%	+4%
研究開発費	294 (6.0%)	331 (6.3%)	+13%	+9%
営業利益	675 (13.8%)	817 (15.6%)	+21%	+25%
(のれん等償却除く)	851 (17.4%)	1,019 (19.4%)	+20%	+21%
経常利益	707 (14.4%)	731 (13.9%)	+3%	
純利益	385 (7.9%)	507 (9.7%)	+32%	

期中平均レート	USD	110円	120円
	EUR	139円	133円

- 売上 : グローバルで、カテーテル、ニューロが二桁伸長を継続し、全体を牽引
- 営業利益 : 心臓血管を中心とした高収益品の売上拡大、コスト改善により粗利益増
- 経常利益 : 前年同期の為替差益（66億）に対し、今年度は差損（75億）
- 純利益 : 東京都渋谷区の土地売却益など



2/29

2015年度は大幅な増収増益となり、売上高、営業利益、経常利益、純利益全てにおいて過去最高を更新しました。グローバルでカテーテル事業、ニューロバスキュラー事業の売上高が二桁伸長となり、全社の業績を牽引した結果、売上高は為替影響を除くベースで前期比5%増となりました。

粗利益率は、心臓血管カンパニーを中心とした高収益品の売上拡大やコスト改善により、前期比2ポイント改善し、54.3%となりました。粗利益額も為替影響を除くベースで前期比10%増となりました。

研究開発費は、将来の成長に向けた投資を行い、為替影響を除くベースで前期比9%増となりました。

営業利益は、粗利益の増加が研究開発費および一般管理費の増加を上回ったことにより、為替影響を除くベースで前期比25%増の817億円となりました。

営業利益以下の項目については、次のページで説明いたします。

営業外・特損益・法人税

(億円)

	14年度	15年度		
営業外損益	33	-86	為替 14年度 15年度	+66 -75
経常利益	707	731	前同比	+3%
特別損益	-67	+38	14年度 欧州再編 15年度 土地売却(Q2)	-56 +44
税前利益	640	769	前同比	+20%
法人税等合計 法人税等負担率	-256 40%	-262 34%	税制改正	税負担減
純利益	385	507	前同比	+32%



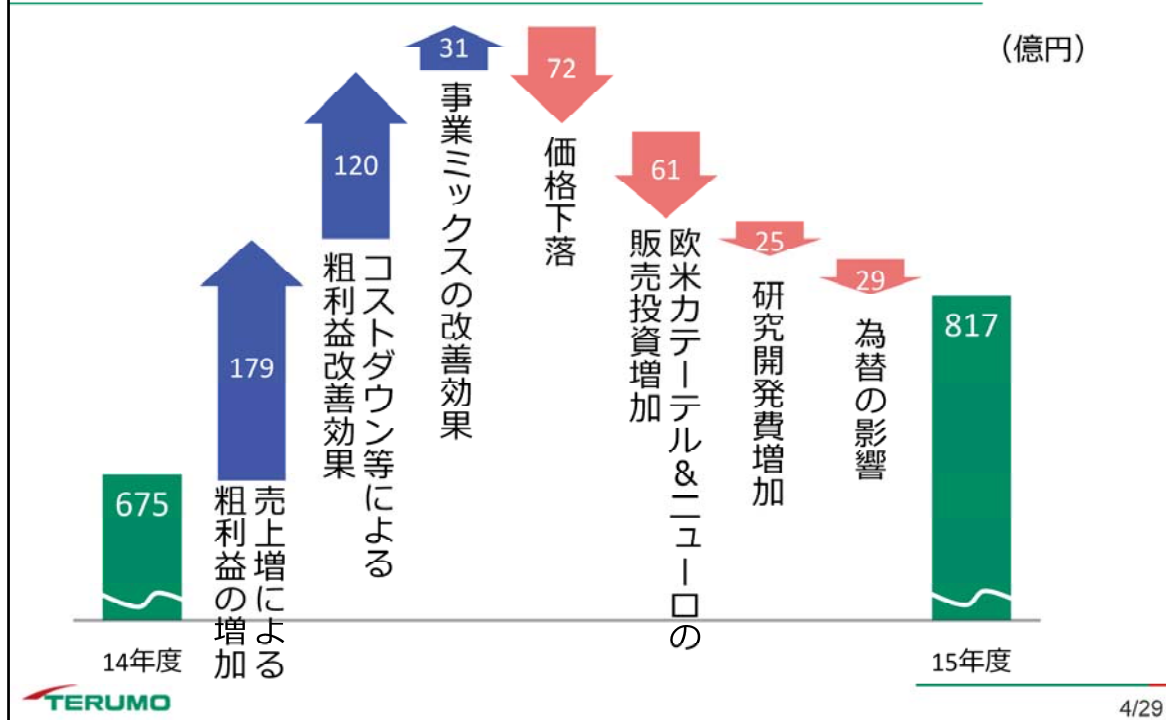
3/29

営業外損益は、2014年度が33億円の収益に対し、2015年度は86億円の費用を計上しました。最大の要因は為替差損益です。2014年度は66億円の為替差益を計上したのに対し、2015年度は、75億円の差損を計上しました。第3四半期累計では24億円の差損でしたが、第4四半期は円高により差損が拡大しました。その結果、経常利益は、前期比3%増に留まりました。

一方、特別損益は、2014年度は欧州再編に伴う費用56億円を計上しましたが、2015年度は土地売却益44億円を計上しました。その結果、税前利益は前期比20%増となりました。

さらに、税制改正等で税負担が軽減されたこともあり、純利益は前期比32%増の507億円となりました。

営業利益増減分析

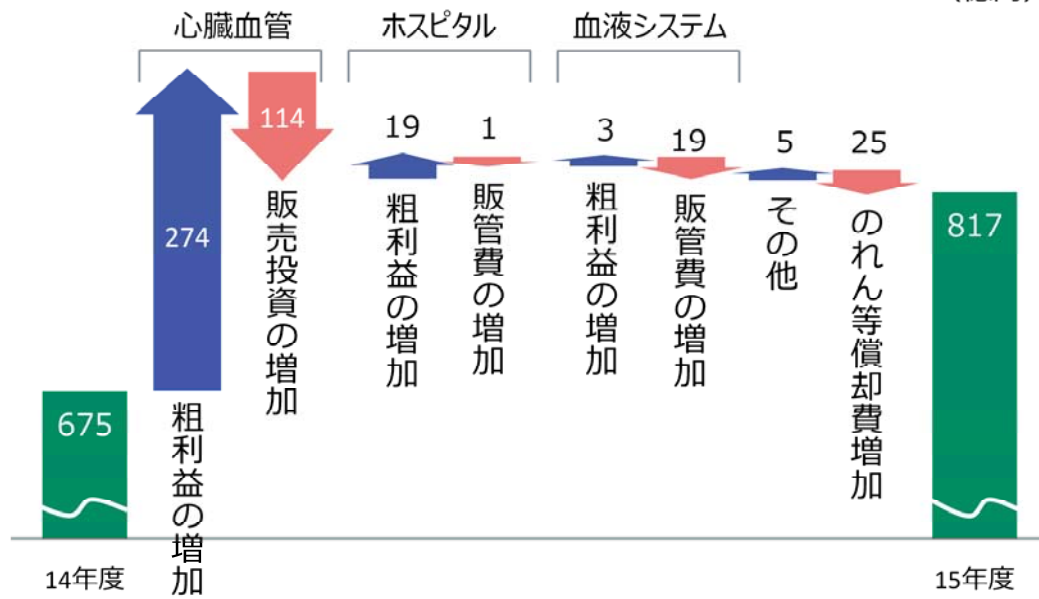


2015年度営業利益の前期比増減分析です。

最大の増加要因は、売上増による粗利益の増加179億円、次にコストダウン等による粗利益改善効果120億円、事業ミックスの改善効果31億円です。為替変動によるマイナスの影響は、第3四半期累計で9億円でしたが、第4四半期のみで20億円、年間では29億円の影響がありました。この点について後ほど詳しく説明いたします。

営業利益増減分析

(億円)



カンパニー別営業利益の増減分析です。

心臓血管カンパニーで粗利益が大幅に増加しました。一方、ホスピタルおよび血液システムカンパニーは収益改善を目指し、販管費を抑制しました。

営業利益への為替の影響

- USD：ドルベースの生産・経費の増加により、ほとんど為替ニュートラル
- EUR：欧州生産縮小、ユーロ売上増加により、感応度アップ
- 新興国通貨：新興国での売上増加、直近の大幅下落により影響度拡大

通貨別	為替の変動 (円) FY14 ~ FY15								営業利益への影響 (億円)		
	FY14Q1	Q2	Q3	Q4	FY15Q1	Q2	Q3	Q4	Q1-Q3累計	Q4	年度累計
USD	102	104	115	119	121	122	121	115	-8	+11	+3
EUR	140	138	143	134	134	136	133	127	-16	-9	-25
人民元	16.4	16.9	18.7	19.4	19.6	19.5	19.0	17.6	+18	-11	+7
その他 (アジア・中南米等)	3.2	3.2	3.5	3.7	3.7	3.5	3.4	3.2	-3	-11	-14
合計									-9	-20	-29



6/29

2015年度の営業利益に対する為替の影響について説明いたします。

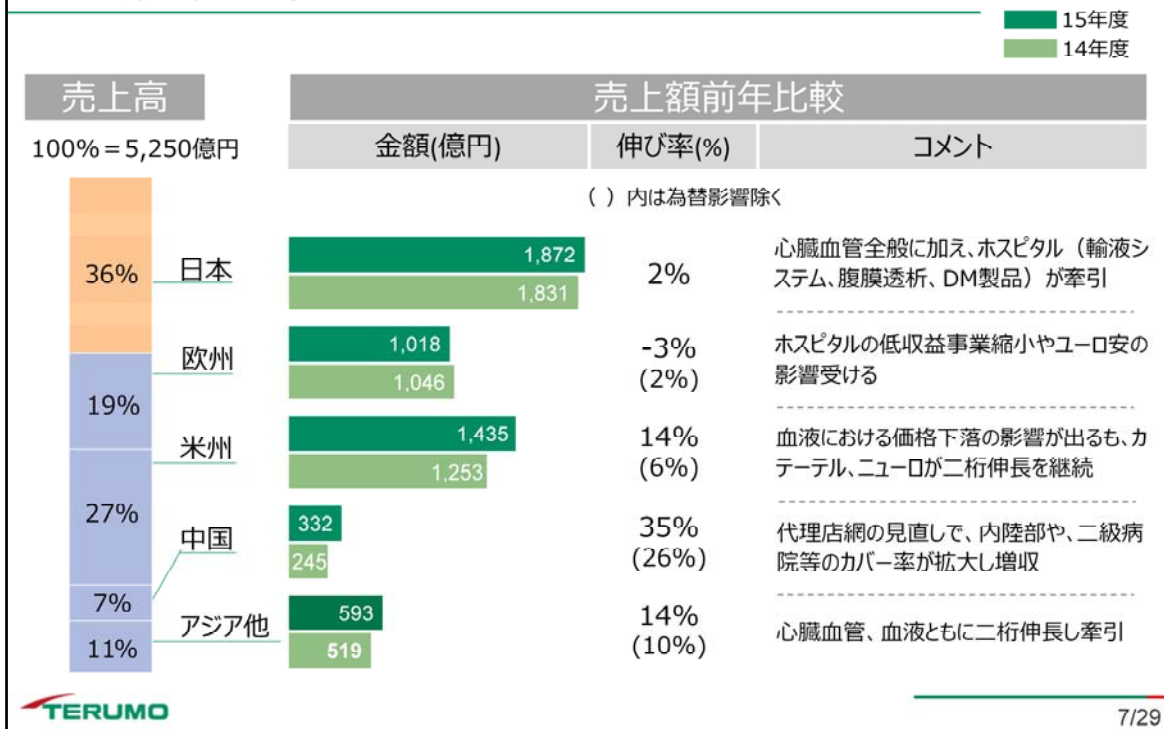
米ドルベースの生産や経費の増加により、米ドル変動の影響はほぼニュートラルでした。

一方、ユーロについては、欧州でホスピタルカンパニーの基盤医療器事業において生産を縮小したことに加え、ユーロベースの売上増加により感応度がアップしました。

新興国通貨は、新興国での売上増加に加えて、直近の大幅な通貨下落により、影響度が拡大しました。

2016年度も同様の状況が続くと見ており、後ほど詳しく説明いたします。

地域別売上高

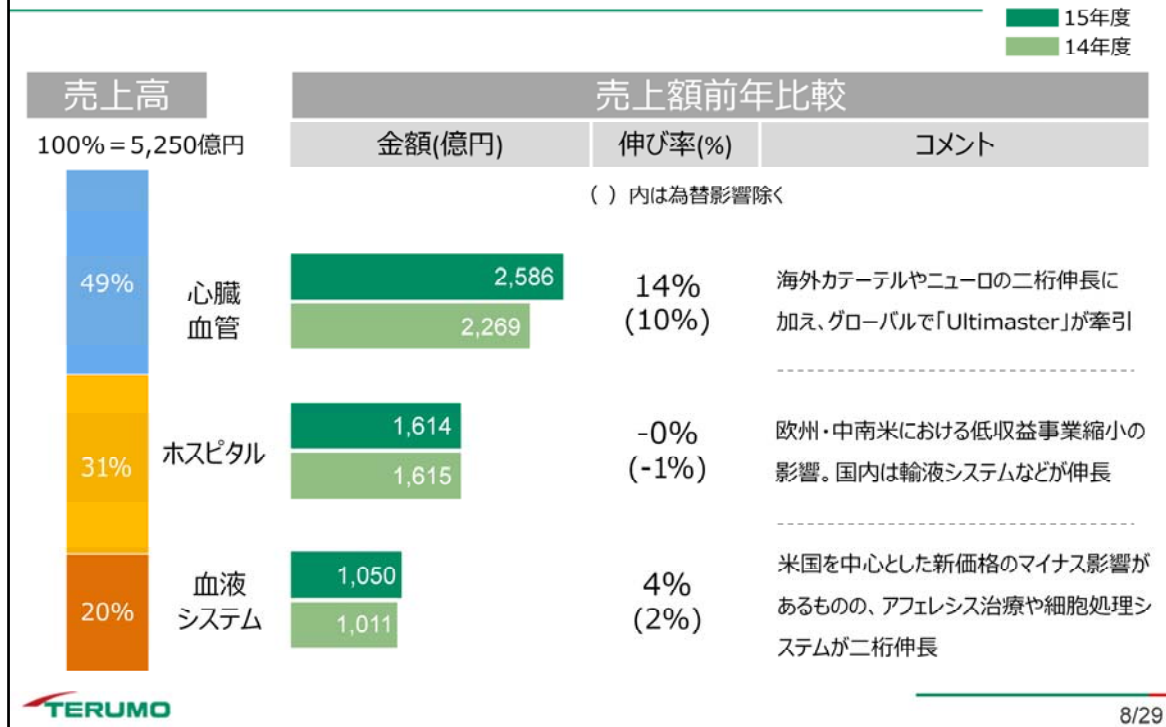


地域別の売上高です。日本では2%の増収となりました。血液システムカンパニーが減収となりましたが、心臓血管およびホスピタルカンパニーは増収となりました。

海外は、欧州を除く米州、中国、アジア他で二桁伸長となりました。

欧州の減収は、ホスピタルカンパニーの低収益事業縮小とユーロ安が主な要因です。

カンパニー別売上高

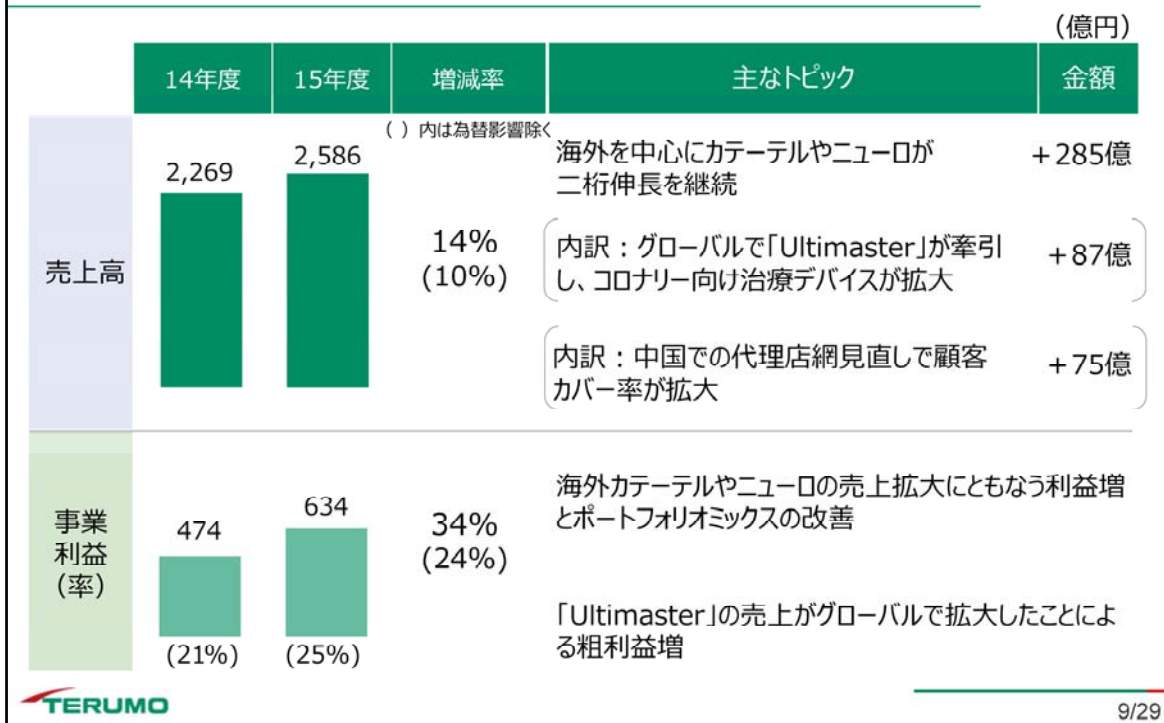


カンパニー別の売上高です。

心臓血管カンパニーが大幅な増収となり、全社の業績を牽引しました。

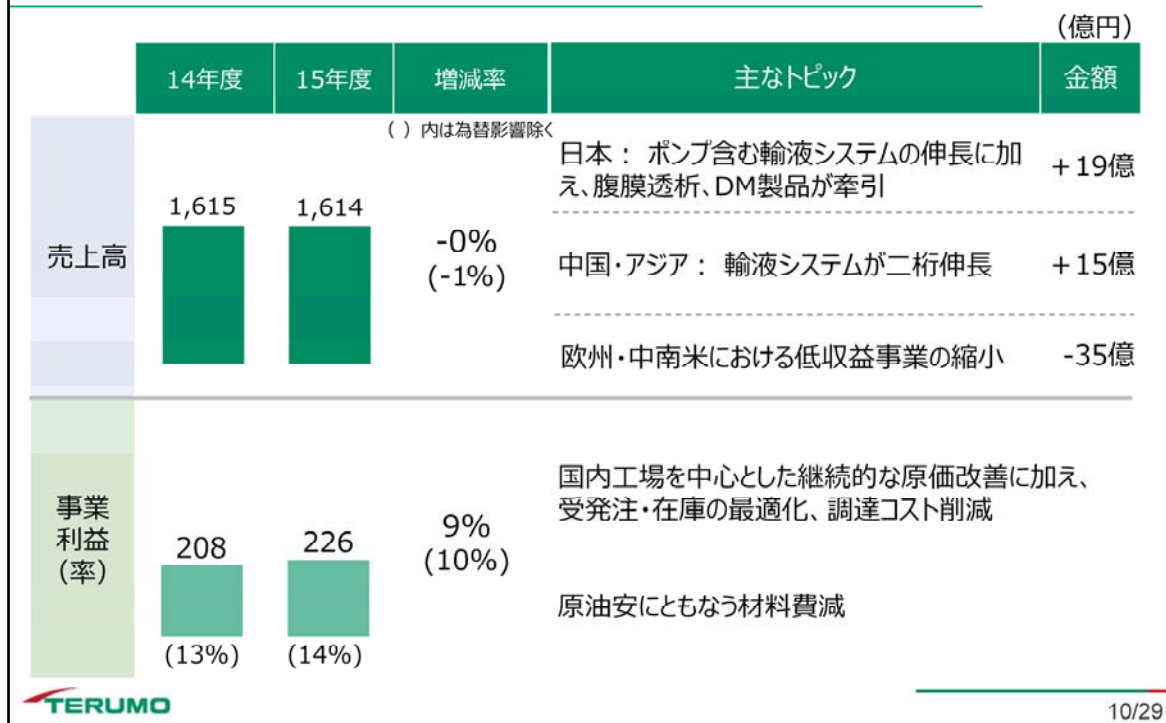
次のページ以降で、カンパニー別に詳細を説明いたします。

心臓血管カンパニー：海外カテーテル、ニューロが牽引。二桁の増収増益



心臓血管カンパニーの売上高は、海外を中心にカテーテル事業やニューロバスキュラー事業の売上が大きく伸長し、前期比14%の増収となりました。さらに、「Ultimaster」がグローバルで売上を拡大したことによる粗利益増なども寄与し、事業利益率は21%から25%へと大きく改善しました。

ホスピタル: 欧米・低収益事業縮小で売上横ばいも、コスト改善で収益改善



ホスピタルカンパニーの売上高は、欧州や中南米における低収益事業の縮小による35億円のマイナス影響がありましたが、日本や中国・アジアで輸液システムなどの売上が伸長した結果、ほぼ前期並みとなりました。

一方、事業利益率は、国内工場を中心とした継続的な原価改善等に加え、原油安に伴う材料費減も寄与し、13%から14%へと改善しました。

血液システム：新興国、アフェレシス治療ともに二桁伸長を維持

								(億円)
		14年度	15年度	増減率	主なトピック			金額
		()内は為替影響除く						
売上高		1,011	1,050	4%	海外において、アフェレシス治療や細胞処理システムが二桁伸長			+36億
				(2%)	中国・アジアにおいて、血液センター向け成分・全血採血ともに二桁伸長			+29億
					米国を中心とした先進国における新価格のマイナス影響			-18億
事業利益(率)		185	169	-9%	米国生産品の欧州販売における、対ドル・ユーロ安のマイナス影響			
		(18%)	(16%)	(-3%)				

血液システムカンパニーの売上高は、前期比4%の増収となりました。米国を中心とした先進国における新価格への移行により、マイナスの影響を受けましたが、海外におけるアフェレシス治療や細胞処理システム、中国・アジアにおける血液センター向けの売上伸長により、増収となりました。新価格への移行に伴うマイナスの影響は、2015年度第4四半期からフルに出ている状況です。

事業利益率は、前期比2ポイント減の16%となりました。新価格移行による影響でマイナス2ポイント、米国生産品の欧州販売における対ドル・ユーロ安による影響でマイナス1ポイントに対し、その他の収益改善努力により、1ポイント改善しました。

15年度 主なトピックス

全社

- 監査等委員会設置会社へ移行（6月）
- 総額610億円の自社株買い（8月、2月）
- 「健康経営銘柄」（1月）、「なでしこ銘柄」（3月）に選定
- 中空糸人工肺、大河内記念賞を受賞（3月）

事業

- 「Misago」が日本企業初の米PMAを取得（6月）
- 皮内投与型デバイスの国内承認（9月）
- 「ハートシート」の国内承認（9月）
- 日本で「Ultimaster」をローンチ（10月）



12/29

2015年度の主なトピックスです。

全社のトピックスとしては、6月に、監査等委員会設置会社へ移行いたしました。

2015年8月と2016年2月には、総額610億円の自社株買いを実施しました。後ほどご説明しますが、ROEの改善にも寄与しています。

また、東京証券取引所ならびに経済産業省より、健康経営銘柄、なでしこ銘柄にも選定されました。

その他、中空糸の人工肺が大河内記念賞を受賞しました。これは大河内賞の中でも最高位となる賞です。

事業におけるトピックスでは、「Misago」が、心臓・血管内治療における体内埋め込み型の医療機器として、日本企業初の米国FDAによるPMA（市販前承認）を取得しました。

日本では、ハートシートが、再生医療製品として初の条件及び期限付承認を取得しました。また、収益貢献が期待できる「Ultimaster」を日本でローンチしました。さらに、皮内投与型デバイスの製造販売承認を取得しました。

15年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品	地域	ローンチ	領域	製品	地域	ローンチ
心臓	DES (Ultimaster) ◎◎ ★	日	10・1発売	CV	遠心ポンプ・ディスポ (PCPS用)	日	Q4
ペリ フェラル	ステント (Misago) ★	米	Q1	血液	自動製剤化システム ★	日	FY16 予定
	PTAバルーン (膝上)	欧・米	Q2	 DES「Ultimaster」 日本 (Q3) ステント膝上「Misago」 米国 (Q1) PTAバルーン「Metacrosss RX」 米国 (Q2)			
	PTAバルーン (膝下)	日	FY16 予定				
塞栓用ビーズ ★	欧	Q1					
脳	コイルアシスト・ステント ◎	日	Q1	 塞栓用ビーズ「LifePearl」 欧州 (Q1) コイルアシストステント「LVIS Jr」 日本 (Q1) 液体塞栓剤「PHIL」 欧州 (Q1)			
	液体塞栓剤 ★	欧	Q1				
	プロテクションデバイス ★	欧	FY16 予定				

◎ 業績貢献 大、★ イノベーション度 高



2015年度に予定していた新製品のパイプラインです。ほぼ計画通りローンチすることができました。

16年度業績予想

(億円)

	15年度 実績	16年度 業績予想	増減率	為替 の影響	16年度 実質 業績予想	増減率
売上高	5,250	5,170	-2%	-310	5,480	+4%
営業利益 (率)	817 (15.6%)	750 (14.5%)	-8%	-85	835 (15.2%)	+2%
経常利益	731	710	-3%	-103	813	+11%
純利益	507	525	+4%			

為替レート USD 120円 110円
 EUR 133円 125円

16年度末 税効果計上による税負担率低減により、純利益増加見込み



14/29

2016年度の業績予想についてご説明します。

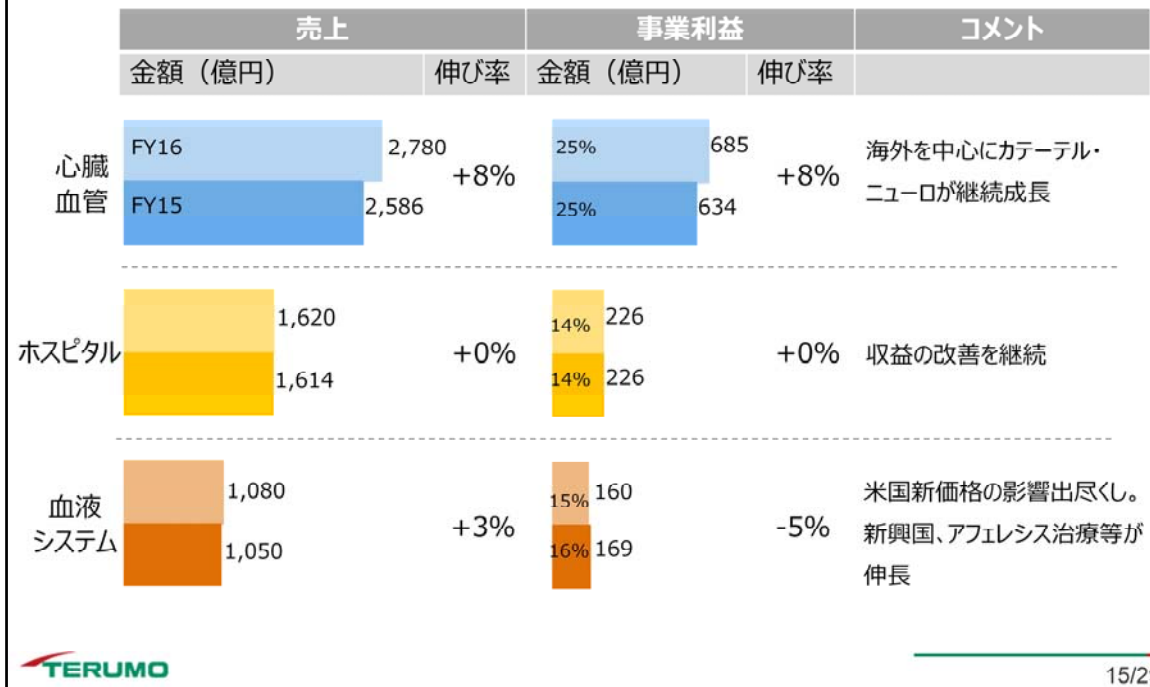
為替レートは、米ドル110円、ユーロ125円を前提としています。

売上高は前期比2%減の5,170億円、営業利益は8%減の750億円を見込んでいます。一方、純利益は2016年度末の税効果計上による税負担率低減により、4%増の525億円を見込んでいます。

2016年度は為替によるマイナスの影響が非常に大きく、前期比で売上310億円、営業利益で85億円の影響を見込んでいます。この影響額を除くと、2016年度の実質業績予想は、売上高が4%増の5,480億円、営業利益が2%増の835億円となります。為替の影響以外に、一時的な要因として、金利低下による年金コスト増15億円を見込んでいます。このコスト増を除くと、営業利益の予想額は850億円となります。

次のページ以降で、業績予想の詳細について説明します。

16年度業績予想（為替の影響除く）

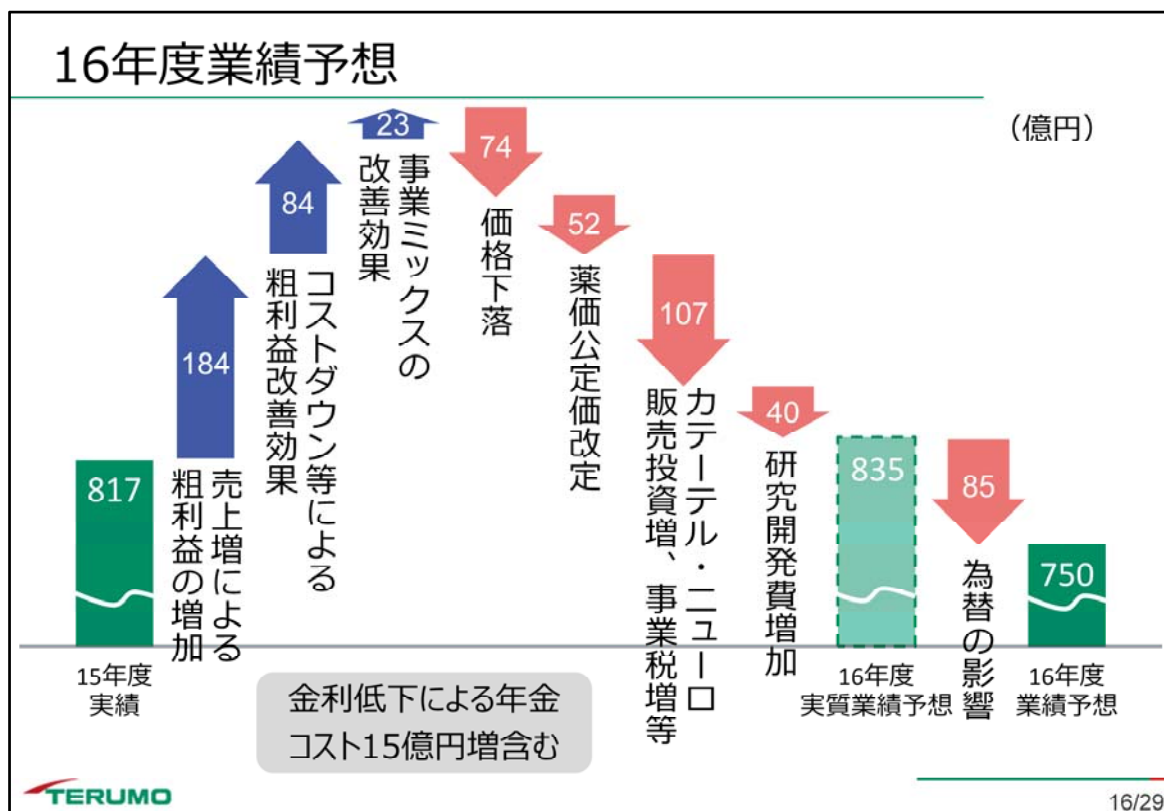


為替の影響を除いたカンパニー別の業績予想です。

心臓血管カンパニーは、2015年度に引き続き、カテーテルとニューロバスキュラー事業の売上伸長により、増収増益を見込んでいます。

ホスピタルカンパニーは、引き続き収益改善の取り組みを継続していきます。売上高・事業利益ともにほぼ前期並みの水準を見込んでいますが、金利低下による年金コスト増の影響を除くと、事業利益は約15%に改善する見込みです。

血液システムカンパニーは、米国における新価格移行のマイナス影響をフルに受ける年となりますが、新興国やアフレスシス治療などで売上を伸ばし、2017年度以降、再び成長軌道へと戻していきます。



2016年度営業利益の前期比増減要因です。

増益要因としては、売上増による粗利益の増加が184億円、次にコストダウン等による粗利益改善効果84億円、事業ミックスの改善効果23億円を見込んでいます。一方、減益要因は、価格下落74億円、薬価公定価改定の影響52億円、カテーテル、ニューロバスキュラー事業等における販売投資増などで107億円を見込んでいます。

2016年度は、更なる成長に向けた発射台の年と位置付け、2017年度以降の成長に向けた投資をしっかりと行っていきます。カテーテル事業を中心に、欧米での販売、セールス、フィールドクリニカルの人員を増強するとともに、新製品開発の中心となる愛鷹工場において100名単位でエンジニアの増員を計画しています。さらに、心臓血管カンパニーを中心に研究開発費も増やす予定です。

16年度為替の影響

(億円)

通貨別	為替の変動 (円) FY15Q1~FY16予想レート				FY16予想	売上 への影響	営業利益 への影響
	FY15Q1	Q2	Q3	Q4			
USD	121	122	121	115	110	-136	+19
EUR	134	136	133	127	125	-39	-23
人民元	19.6	19.5	19.0	17.6	17.0	-33	-15
その他 (アジア・中南米等)	3.7	3.5	3.4	3.2	3.1	-102	-66
合計						-310	-85

例) タイ・パーツ



17/29

2016年度の予想レートは、米ドル110円、ユーロ125円としています。

2015年度は、米ドルとユーロが異なる動きをしましたが、2016年度は、ドル、ユーロともに前期比で円高を想定しています。営業利益に対する影響額は、米ドルではのれんを除くとニュートラルですが、のれんを含めるとプラス19億円となり、ユーロの変動によるマイナス23億円の影響とほぼオフセットされる見込みです。

為替変動の影響額が一番大きいのは、人民元とその他の新興国通貨です。人民元でマイナス15億円、その他の新興国通貨でマイナス66億円を見込んでいます。全通貨合計では、マイナス85億円の影響を見込んでいます。

為替対策：事業ポートフォリオ見直しによる収益力向上

■ 高収益事業へシフト

例) 欧州ビジネス構造（売上構成比）

	FY14		FY16	売上増減
心臓血管	62%	▶	66%	+29
ホスピタル	12%		8%	-40
血液システム	26%		26%	+2

(億円)

■ 低収益事業の見直し

例) 中南米 ホスピタル・基盤医療器事業

FY16（FY14比）

- ・ 売上 35%減
- ・ 利益 35%増（利益率13%ポイント改善）



18/29

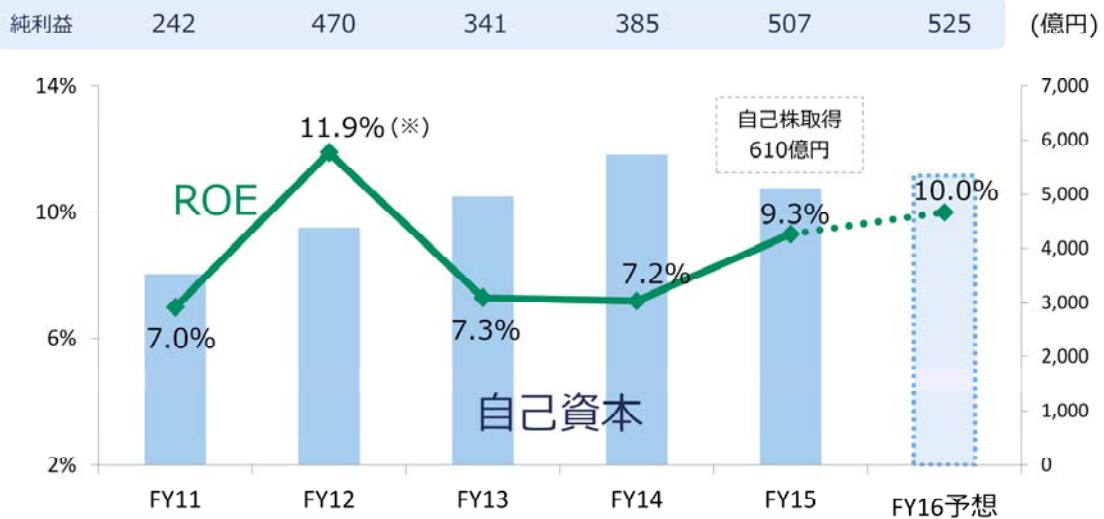
為替変動に対する対策としては、収益性を維持できるよう、事業ポートフォリオの見直しを行う事が最も重要と考えています。

欧州では、事業構成をホスピタルカンパニーから、より収益性の高い心臓血管カンパニーへとシフトさせており、2014年度から2016年度にかけて心臓血管カンパニーの売上構成比が増えています。

また、低収益事業の見直しにも引き続き取り組んでいきます。例えば、中南米の基盤医療器事業では、収益性の高いビジネスへのシフトを進めており、2016年度の計画では、2014年度比で売上高が35%減に対し、利益は35%増、利益率は13ポイントの改善を見込んでいます。

ROE推移

■10%台へ向上



(※)TBCT再編により法人税等減少



19/29

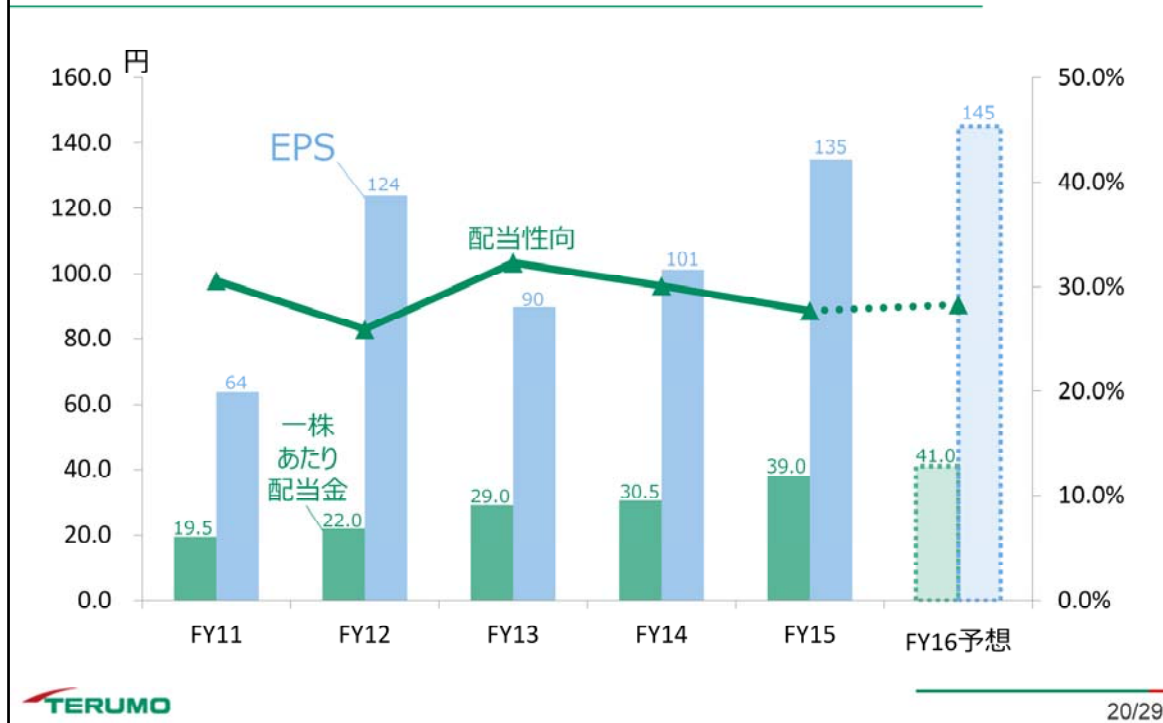
ROEの推移です。

2011年度から2014年度は、純利益が242億円から385億円と大きく増えましたが、自己資本も増えた結果、ROEは7.0%から7.2%とほぼ変わっていません。自己資本が増えている要因は主に2点あります。1つは収益が増えている事、もう1つは円安によりドルベースの資産が円換算で増加し、為替換算調整勘定が増えた事です。

このような状況の中で、2015年度は610億円の自己株取得を実施しました。この結果、自己資本が減少するとともに、純利益が増加し、ROEは前期の7.2%から9.3%へと向上しました。

2016年度の予想ROEは、純利益の増加に加え、円高で為替換算調整勘定の減少による自己資本の減少が見込まれることから、更に改善が進み、10%を見込んでいます。

配当およびEPSの推移



1株あたりの純利益（EPS）は、2011年度以降、順調に増加しています。2012年度の大増は、テルモBCT再編に伴う法人税等減少による一時的な要因です。

EPSが増加する中、配当性向30%の水準を維持し、1株あたり配当金も着実に増額することができました。

2015年度の配当金は、期初は上期、期末各16円、計32円の配当を予定していましたが、上期には好調な業績を受けて、上期、期末ともに19円、合計38円に増配しました。更に今回の決算発表と同時に、期末配当金を20円へと増額し、年間39円を予定しています。

2016年度の配当金は、純利益の増加を受けて年間41円を予定しています。

16年度パイプライン製品

領域	製品		地域	領域	製品		地域
心臓	DES (Ultimaster)	◎★	仏	CV	遠心ポンプ装置		亜
	DES (Ultimaster) 4.0mm品種追加	◎★	日	D&D	皮内投与デバイス	★	日
イメージング	IVUS	◎★	日		癒着防止材	★	日
ペリフェラル	PTAバルーン (膝下, RX/OTW)		日・米・欧	DM	血糖計 (フィットスマイル)		中
	PTAバルーン (膝上・下両用, RX/OTW)		日・米・欧	血液	自動製剤化システム	★	日
	PTAバルーン (膝上, RX/OTW)		日・米・欧	再生	ハートシート	★	日
脳	プロテクションデバイス		欧				
オンコロジー	放射線塞栓ビーズ (Quirem)	★	欧	放射線塞栓ビーズ (欧) 「ハートシート」 (日) 皮内投与デバイス (日)			

◎ 業績貢献 大、★ イノベーション度 高



21/29

最後に2016年度の製品パイプラインをお示しいたします。
 以上で説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

参考資料

事業別 地域別売上高と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	516 (+7%)	2070(+11%)	667 (+5%)	894(+11%)	264(+30%)	246(+13%)	2586(+10%)
うちカテーテル※	396 (+7%)	1633(+14%)	533(+6%)	652 (+16%)	251(+31%)	197(+17%)	2029(+13%)
ホスピタル	1242 (+2%)	372 (-7%)	93 (-24%)	83 (-12%)	19 (+11%)	177 (+6%)	1614 (-1%)
血液システム	115 (-9%)	936 (+4%)	258 (+6%)	457 (-1%)	49 (+14%)	171 (+11%)	1050 (+2%)
合計	1872 (+2%)	3378(+7%)	1018 (+2%)	1435(+6%)	332 (+26%)	593 (+10%)	5250 (+5%)

※ニューロバスキュラー事業含む
() 内は為替影響除く対前年同期伸長率

販管費

(億円)

	14年度	15年度	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	705	760	+55	+ 8%	+5%
販促費	160	172	+12	+ 8%	+6%
物流費	110	110	-0	- 0%	-1%
償却費	251	275	+24	+10%	+3%
その他	366	384	+18	+ 5%	+3%
一般管理費計	1,592 (32.5%)	1,701 (32.4%)	+109	+ 7%	+4%
研究開発費	294 (6.0%)	331 (6.3%)	+37	+13%	+9%
販管費合計	1,886 (38.5%)	2,032 (38.7%)	+146	+ 8%	+5%

() 内は対売上高%



四半期の動き

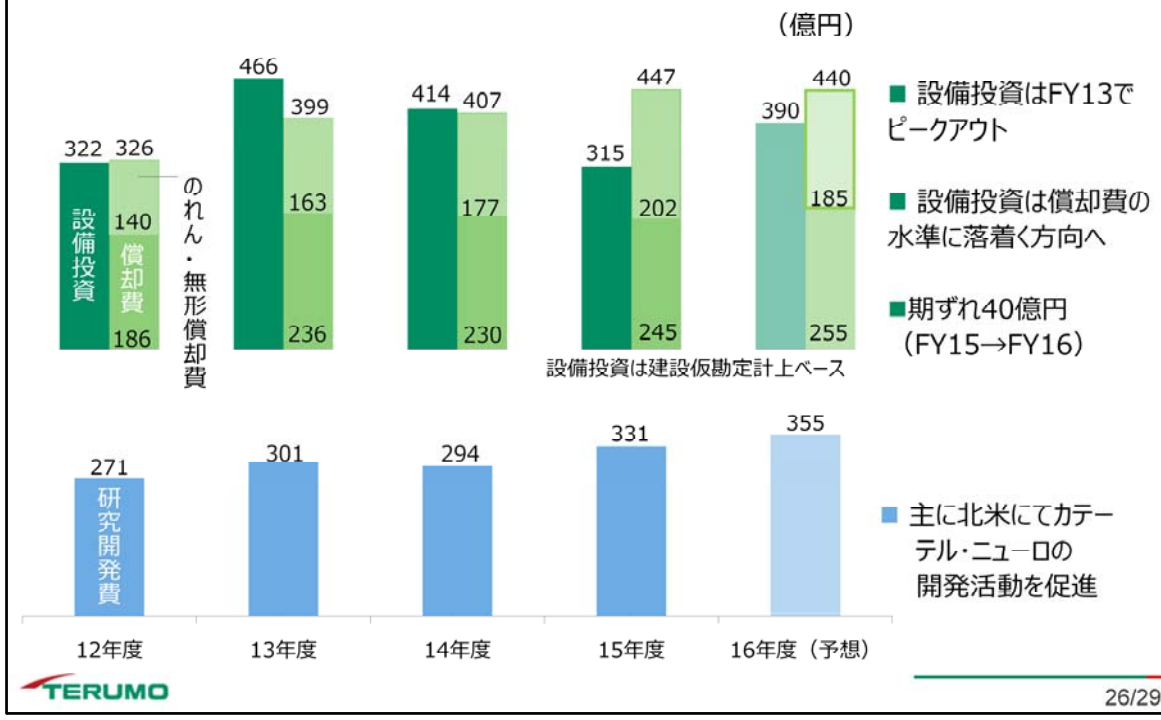
(億円)

	14年度Q4 (1-3月)	15年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)
売上高	1,263	1,287	1,305	1,368	1,290
粗利益	654 (51.7%)	690 (53.7%)	704 (53.9%)	753 (55.0%)	703 (54.4%)
販管費	424 (33.5%)	417 (32.5%)	427 (32.7%)	429 (31.3%)	428 (33.1%)
開発費	84 (6.7%)	79 (6.1%)	80 (6.1%)	74 (5.4%)	99 (7.7%)
営業利益	146 (11.5%)	194 (15.1%)	197 (15.1%)	250 (18.3%)	176 (13.6%)
のれん等償却 除く営業利益	194 (15.3%)	245 (19.1%)	248 (19.0%)	301 (22.0%)	225 (17.4%)
四半期 平均レート	USD 119円	121円	122円	121円	115円
	EUR 134円	134円	136円	133円	127円

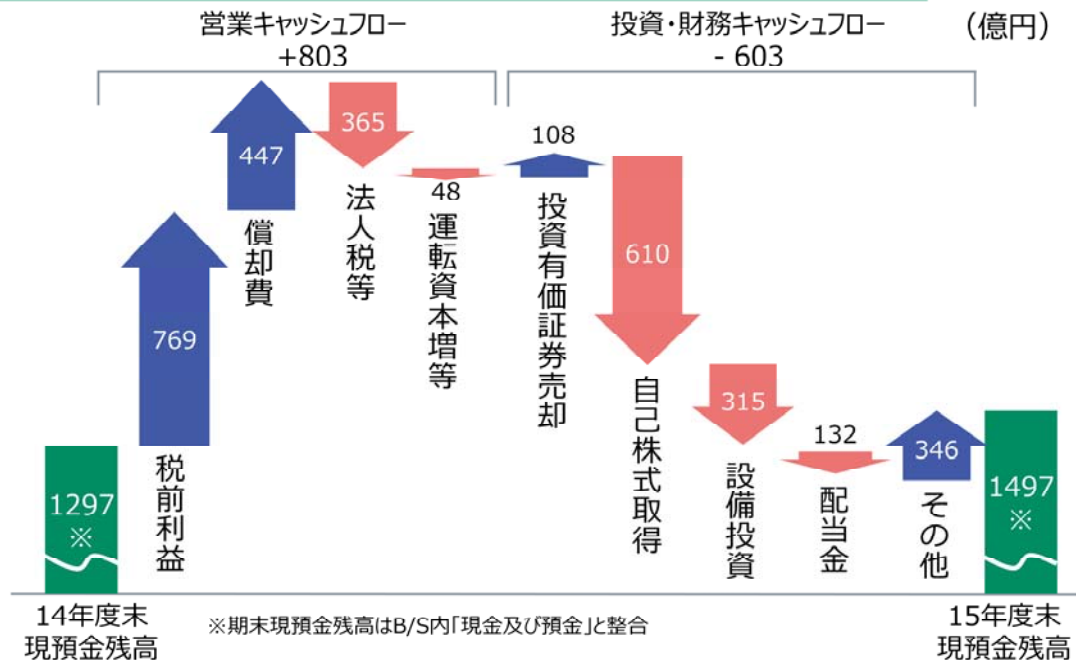


25/29

設備投資と研究開発費



キャッシュフロー



為替感応度

(億円)

	USD		EUR
	のれん等償却 除く	のれん等償却 含む	
売上高	14	14	5
営業利益	0	-2	3

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。